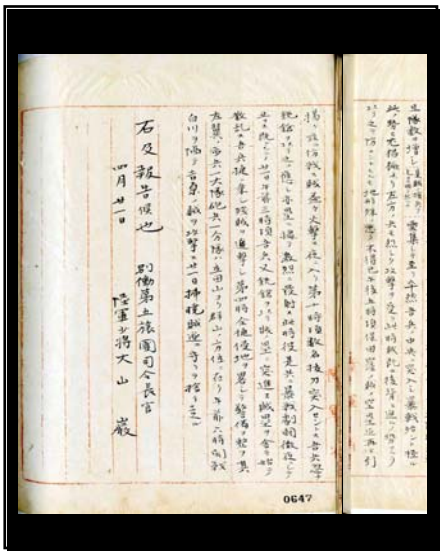
・・・・「史料紹介コーナー」・・・・

平成 22 年度は、日露戦争に参加した軍人の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

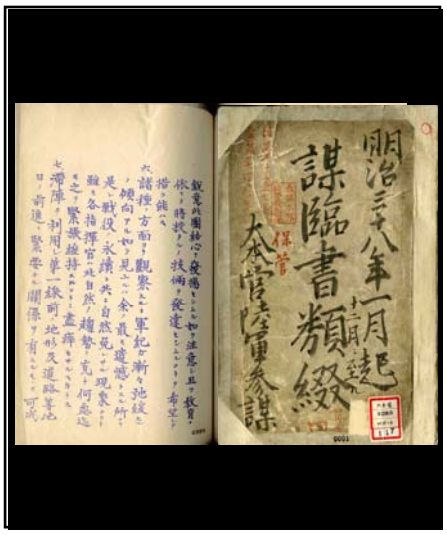
《　大山（おおやま）　巌（いわお）　1842～1916年　》
―陸軍を率い日露戦争を勝利に導いた将軍の中の将軍―



四月廿日保田窪攻撃ノ戦状

（登録番号：陸軍省―西南戦役軍団本営―M10―6―249）

大山巌少将（後の元帥）は明治 10 年 2 月に勃発した西南戦争に旅団司令長官及び攻城砲隊指揮長官として参加しました。この史料は、田原坂の戦いの後、明治 10 年 4 月 20 日から熊本城の東方にある保田窪において、大山少将率いる別働第 5 旅団が薩軍陣地を攻撃した際、薩軍の反撃を受けて一時危機に陥った時の同少将による戦状報告です。「保田窪ノ賊ノ空塁迫再ヒ引揚ケ茲ニ防戦ス賊益々火撃ス・・・暴戦劇闘徹夜ニシテ止マス」と昼夜を分かたぬ一進一退の激戦の状況が刻銘に報告されています。



満洲軍總司令官訓示

（登録番号：大本営―日露戦役―M38―4―117）

日露戦争時、大山巌元帥は満洲軍総司令官として満洲軍の指揮を執りました。満洲軍は遼陽、旅順と勝利を重ねましたが、明治 38 年 3 月の奉天会戦に勝利した後は、その戦力も限界点に達しつつありました。しかし、一方のロシア軍は依然、大きな戦力を保有していました。この史料は連合艦隊が日本海海戦に大勝した後の明治 38 年 6 月 5 日に大山元帥が各軍司令官に示達した訓示です。この中で同元帥は「諸種ノ方面ヨリ観察スルニ軍紀ガ漸々弛緩スルノ傾向アル如ク見ユルハ余ノ最モ遺憾トスル所ナリ」と述べ、常にロシア軍に対する備えを怠らぬよう各軍の軍紀弛緩の傾向を戒めています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。
詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧下さい。

※　記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画室
専用線：８－６７－６５２２、６５８８　　外　線：０３－３７１３－５９１２
ＦＡＸ：０３－３７１３－６１４９　　E-mail：　nidsnews@nids.go.jp
※　防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp